

つた様に思われる。更にその発生箇所が貨物船の停泊地である事等を総合して見ると、恐らく貨物船によつて運ばれて来たものではなからうかと考えられる点が多い。それが発生したと言う1908年頃の當時を回顧すると、恰度日露戦争が終り日本海經由の北海道小樽と大連との輸送航路が開通する様になつてからの事である。この貨物船は一旦大連港口で停泊するので北海道産昆布の胞子がこの航路の貨物船の船底なりに附着したまま運ばれたものが大連港口の堤壁に偶々着生、発生したと考える事が適切な様に考えられる。即ち昆布の生育地として例外的なものとして考えられている大連産の来源を北海道より運ばれたものと見做し得るならば問題は解決される。

その生育に就いては従来の沿岸流の知見ではその發育条件も不充分であるが、遼東半島(大連一帯)の海藻相からも、亦沿岸流の調査からも明らかである如く冬季特色があつて局部亜寒帯地区を構成し、冬季は北上して来る夏季沿岸流に代つて旅順黄金台下附近に発生する局部亜寒流発生し、山東半島角へ向つて南下する沿岸流が現出するので、昆布の発生する時季に都合よくその生育条件をもたらすものである。

遼東半島の沿岸一帯は泥土多きため自然発生は少なく僅かに黒石礁に見られ、亦旧露西亜町波止場に生育するのが見られたが、露西亜町波止場のものは比較的矮形で葉質も薄く生育は良好なものではなかつた。冬季遼東半島より山東半島角へ向つて南下する亜寒流により煙台(芝罘)港口にある一小島たる無人島に発生していた事が昭和16年頃始めて判明したのが、只今の処唯一の自然発生地であらう。

昆布の生育からも述べられる事は、遼東半島沿岸の海藻相は山東半島の沿岸と関係有し朝鮮西海岸とは余り関係は見られない。恐らく朝鮮西海岸を流れる沿岸流は遼東半島の沿岸へは達せず、亦鴨緑江の流水に遮えられて居る様に考えられる。

(新潟大學理學部生物學教室)

F R I T S C H 教 授 逝 く

“The Structure and Reproduction of the Algae”(1935, Vol. 1; 1945, Vol. 2) (藻類の構造と生殖)の著者として知られるロンドン大学名誉教授 F. E. FRITSCH 氏は昨年5月23日75歳で長逝された。1911年から1948年までロンドン大学 Queen Mary College の植物学科主任、晩年1949年から1952年まで Linnean Society の会長であつた。上記の著書は永く古典として残るべき書で、戦後第2巻の出版を知つた筆者は南加大学の DAWSON

博士の好意により岡村先生の日本海藻誌と交換に新本を贈られたが、それを手にした時の欣喜は今も忘れられない。その後人の依頼で価格などについてお尋ねの手紙を出したその返事はペンで認められ婦人のような優しい小さい文字であつたことを思出す。“Nature” (174: 4424) に PRINGSHEIM 氏のと MARGERY KNIGHT 及び LILY NEWTON 両女史連名の哀悼文が載っている。

(時田 卵)

新 著 紹 介

ドラウエット及びデュイリー著

球 形 藍 藻 類 の 一 覽

F. DROUET and W. A. DAIRY: A Synopsis of the Coccooid Myxophyceae.
(But. Univ. Bot. Stud., Vol. 10, 1952, pp. 220-223)

本書は両氏が過去10年間に野外よりの採集品及び欧米各地の腊葉庫からの多数の球形藍藻類の標本により、現在迄に分類命名上に発表された1000余の原標本を再検討した結果を要約発表されたものである。本書には3科29種4品種(内1新科, 11新結合種, 1 Stat. nov., 3新品種)が記録され、属及び種は形態学上の主な性質により検索表によつて分類列記されている。なお本研究の詳細は他の論文に発表されている。

本書に記録された各々を簡単に列記すれば下記の如し(ゴジック体は新科, 新結合種, 新品種を示す。但し, *E. elongata* は Stat. nov. である。括弧内は前掲種のシノニームである。)

CHROOCOCCACEAE-ANACYSTIS: *A. cyanea* (KUETZ.) (*Palmella cyanea* KUETZ.), *A. incerta* (LEMM.) (*Polycystis incerta* LEMM.), *A. nidulans* (RICHT.) (*Aphanothece nidulans* RICHT.), *A. montana* (LIGHTF.) (*Ulva montana* LIGHTF.), f. *montana*, f. *minor* (WILLE) (*Aphanothece saxicola* β *aquatia* f. *minor* WILLE), f. *gelatinosa* (HENN.) (*Aphanothece stagnina* f. *gelatinosa* HENN.), *A. dimidiata* (KUETZ.) (*Trochiscia dimidiata* KUETZ.), *A. aeruginosa* (ZANARD.) DR. & DAILY *A. thermalis* (MENEH.) (*Trochiscia thermalis* MENEH.), *A. limnetica* (LEMM.) (*Chroococcus limneticus* LEMM.), f. *major* (LAGERH.) (*Chroococcus helveticus* f. *major* LAGER.); MERISMOPEDIA: *M. tranquilla* (EHRENB.) TREVIS, *M. thermalis* KUETZ.; JOHANNESBAPTISTIA: *J. pellucida* (DICKIE) TAYLOR & DR.; COCCOCHLORIS: *C. aeruginosa* (NAEG.) (*Synechococcus aeruginosus* NAEG.), *C. stagnina* SPRENG., *C. elabens* (BRÉB.) DR. & DAILY, *C. Peniocyctis* (KUETZ.) DR. & DAILY; GOMPHOSPHAERIA: *G. Wichurae* (HILSE) (*Ceolospaerium Wichurae* HILSE), *G. lacustris* CHOD., *G. aponina* KUETZ.; MICROCROCIS: *M. geminata* (LAGERH.) GEITL. CHAMAESIPHONACEAE-ENTOPHYSALIS: *E. crustacea* (J. AG.) (*Myrionema crustaceum* J. AG.), *E. endophytica* (HOWE) DR. & DAILY, *E. conferta* (KUETZ.) DR. & DAILY *E. rivularis* (KUETZ.) DR., *E. papillosa* (KUETZ.) DR. & DAILY, *E. Brebissonii* (MENEH.) DR. & DAILY, *E. elongata* (WILLE) (*Chamaesiphon gracilis* f. *elongata* WILLE), CLASTIDIACEAE-CLASTIDIUM: *C. setigerum* KIRCH.; STICHOSIPHON: *S. sansibaricus* (HIERON.) (*Chamaesiphon sansibaricus* HIERON.)

(梅崎勇一京都大學農學部水産學教室)